

早々11月(1日まがアッという間外過ぎていく)
 来年度の入园希望者の原書受付(11月1日)
 私が幼稚园教師になる53年、
 今より子どもの数が多かった。
 ほとんどのが2年保育が主流だった。

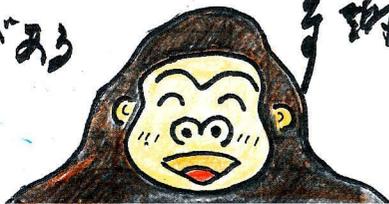


(それ以前は年長組・1年保育が主流)
 今は?産れてすぐに……?
 新所沢幼稚园は年少から受け入れて55年になる。
 昭和39年当時、年少組が独立して11の幼稚园は
 ほとんどがなかった。

先代の園長が「年少組(3才児)が大事だ、
 「3才の子に多い100まで」といわれたら

3才児の教育を充実させたい」と常に話をしていた。
 年少から集団生活、親子で幼稚园生活を
 楽しんでいた。子どもと親の関わりの手間が
 文部省から定められている保育時間4時間だった
 子どもにとって大好きな家族と大好きな幼稚园が
 すぐすバランスが絶妙だと思ふ。

家にかかると「おかしなママ」の責、それが
 子どもたちの心にいろいろな感情をインプットさせて
 いると思ふ。思ふというのは私の勝手な思い込み
 願ひでもある。今子どもたちは3才だから、朝早く
 から夜遅くまであそび出しは、現実がある



園長通信(ふでいのかたあ)
 しんところ子
 園長室具野

新所沢幼稚园へ
 おまかけおろそかに
 して

仕事をせざるを得ない。これが入り込む
 親が子どもを見るので、保育園にある
 これも必要のこと!!
 だけど子どもに
 何の力も与えられない。幸福なことだろうか?



親が手回しで子育てするので、社会が園が
 子どもの……子どもより大人の都合で、保育園・認定こども園へと
 長年手回しあがりへ

何か子どもにらを見て
 悲しい気持ちになる。
 も、と子どもの心の中の思いを



だけどこれは私のためか?
 現実の社会は女性の社会進出を促している
 かくいう私も子どもをあずけて仕事を続けたい
 父や母の力をかりて子育て経ては、人か代理
 ママが助けてくれた。今は?……(家族・地域の
 人由あなたかうすくろこが?)

11月1日、親子で手をつなげて力をくくくる表情を
 見ると「新所沢幼稚园へようこそ」と声をかけられ
 たりした。「親子で学びあり 楽しみ
 子ども成長 11月あるしこの時世界を
 幼稚园と家庭で共有しよう」と